

推薦図書

『健康で文化的な最低限度の生活』

柏木 ハルコ 著

小学館

推薦教員

福祉心理学科教員

朝比奈 朋子准教授

昨年、フジテレビでドラマ化されたので目にしたことのある人もいるかもしれません。日本の社会保障・社会福祉の基本理念である日本国憲法第25条の条文の文言がそのまま題名に使われているという、多くの福祉関係者がにわかには信じられなくて二度見してしまったであろう作品です。ドラマ化にあたり「ケンカツ」という新たな略語？も作られました。

ストーリーは安定を求めて公務員になったら生活保護担当に配属されて戸惑いながらも成長していく新人ケースワーカーの話なのですが、おススメしたいポイントはそこではなく、一つには事例として取り上げられている生活保護受給者とその家族の描かれ方です。作者の柏木ハルコさんがケースワーカーの研究会をはじめ、生活保護受給者とその家族に関わる幅広い専門職や支援者及び支援機関に丁寧に聞き取りをした上で、偏見やスティグマに捉われない、生活保護受給者とその家族の生活を描いています。もう一つは、作中でベテランのケースワーカーが「人が健康で文化的に生活する」こと、「他者を理解すること」に関連して語る言葉にも着目です。

生活保護受給者及び貧困者、あるいは生活困窮者に関して、今までにもさまざまな読み物が出版されていますが、この作品ほど丁寧に生活実態を描いているものはないように思います。生活保護制度についてもかなり正確に解説されています。ソーシャルワーカーを目指す人はもちろん、生活保護に対してネガティブなイメージを持っている方にも一読いただきたい作品です。



お知らせ

*こちらの図書は、購入予定がありません。
未完の図書であるためです。ご了承下さい。

夏季休業期間の長期貸出は、7月23日(火)から実施します。
返却日は、9月27日(金)です。